



綴プロジェクト作品 しゅうとうかちょうず 秋冬花鳥図
狩野派筆 寄贈先：談山神社 原本所蔵：大英博物館

帰ってきた日本の文化財
綴プロジェクト作品（高精細複製品）
『秋冬花鳥図』 狩野派筆

Vol. 16

山深き神社を彩った、狩野派の技。

水辺に集う渡り鳥、咲き誇る芙蓉の花、色づく楓、そして上段に雪を被る檜。秋と冬がまじり合う金色の野の奥へ奥へ、室内にいなながら、花や鳥に囲まれた理想の美に取り込まれる錯覚を覚える。江戸時代初期、日本画壇の最高峰に昇りつめ、宮廷や城の障壁画を多数手がけた狩野派の名品が、奈良の山深き神社にもあった。

奈良県桜井市多武峰たうのみねの談山神社たんざんに「秋冬花鳥図」が綴プロジェクトの高精細複製品として里帰りしました。原本はイギリス大英博物館の所蔵です。今はなき「学頭屋敷」という、神社の中でも格式高い建物の二室にあったといわれています。屋敷内においても花鳥風月を愛でることを忘れない、当時の日本人の美意識に込めるように、狩野派はその技を結集して優れた花鳥図を多く残しました。この襖絵もその一つ、当時の人々の美を築きむ心も蘇ってくるようです。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品37作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報

綴プロジェクト作品・秋冬花鳥図は談山神社にて公開されています。

Canon